

工事の総合評価について

令和4年9月28日
山梨県総合評価委員会
県土整備部技術管理課

令和3年度工事総合評価実施結果

令和4年9月28日
山梨県総合評価委員会
県土整備部技術管理課

令和3年度の総合評価実施方針



令和3年度の総合評価実施方針(工事)

令和2年度 第2回委員会(令和3年3月19日)で決定

1. 原則、3千万円以上の工事について実施する。(緊急を要する工事を除く)
2. 簡易型の工事は余裕期間制度の試行を継続する。
3. 3千万円以上の災害本復旧工事を総合評価落札方式で実施する場合は、特別簡易型 I を適用する試行を継続する。
4. ICT(受注者希望型)を適用する工事はICTの施工計画を求める試行を継続する。
5. 1千万円以上のアスファルト舗装工事は「施工体制評価型」の試行を継続する。
6. 1千万円以上の解体工事は「施工体制評価型」の試行を継続する。
7. 意見聴取は毎週木曜午後2時から防災新館で実施、木曜日が祝祭日の場合は、前後に実施する。
8. 令和3年度 第1回山梨県総合評価委員会開催を9月、第2回委員会開催を3月に予定する。

令和3年度 山梨県総合評価委員会 開催日
 第1回 令和3年9月28日
 第2回 令和4年3月17日

(工事規模) R3. 4~R3. 11

3億円	簡易型 (30) 又は 標準型 (40) 【2項目】	標準型 (40) 又は 高度技術提案型
1億円	簡易型 (25) 【1項目】	簡易型 (30) 【2項目】
5千万円	特別簡易型 (II) (20)	特別簡易型 (II) (20) (注1)
1千万円	特別簡易型 (I) (15)	簡易型 (25) (注1) 【1項目】
	I・II	III・IV
	(技術的難易度)	



(工事規模) R3. 12~

3億円	簡易型 (30) 又は 標準型 (40) 【2項目】	標準型 (40) 又は 高度技術提案型
1億円	特別簡易型 (II) (20)	簡易型 (30) 【2項目】
5千万円	特別簡易型 (I) (15)	特別簡易型 (II) (20) (注1)
1千万円	特別簡易型 (I) (15)	簡易型 (25) (注1) 【1項目】
	I・II	III・IV
	(技術的難易度)	

- 特別簡易型(I)
企業実績、地域精通度、地域貢献度を評価するタイプ
- 特別簡易型(II)
特別簡易型(I)に加え、配置予定技術者を評価するタイプ
- 簡易型
特別簡易型(II)に加え、簡易な施工計画の提案を評価するタイプ
- 標準型
簡易な施工計画ではなく、技術提案を求め、評価するタイプ
- 県内下請活用審査型
県内に資格者がいない工事において、県内企業が下請できる部分が含まれる工事が対象
- 施工体制評価型
As工事、解体工事において、自社雇用の技術者や自社所有の施工機械を評価するタイプ

令和3年度の総合評価 意見聴取実施状況

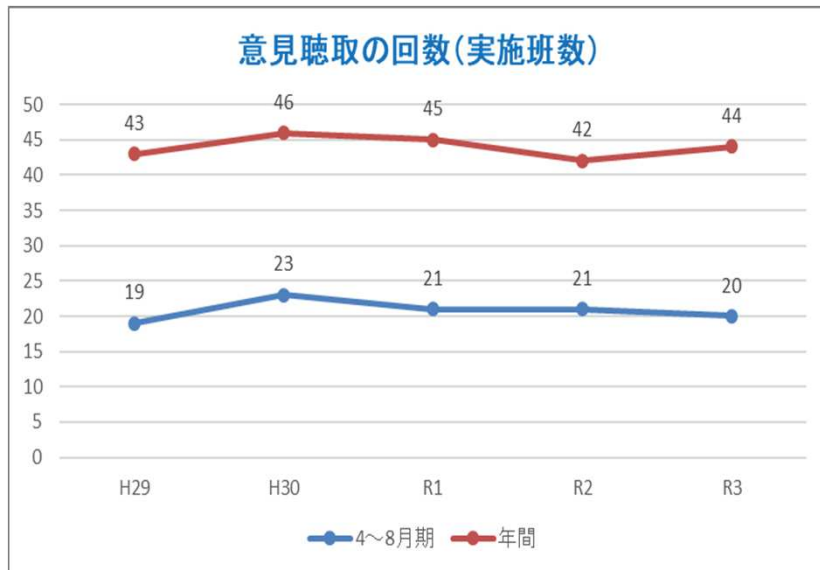
令和3年度の意見聴取件数は**871件**(867件+県以外4件)。

	合計	通常				下請 県内下請 活用審査型	施工体制評価型		建設コンサルタント業務		県以外 市町村・ 道路公社等
		特別簡易型 (I)	特別簡易型 (II)	簡易型	標準型		アスファルト 舗装工事	解体工事	簡易型	特別簡易型	
意見聴取件数	871件	389件	128件	169件	1件	3件	128件	5件	3件	41件	4件

※令和4年3月末時点

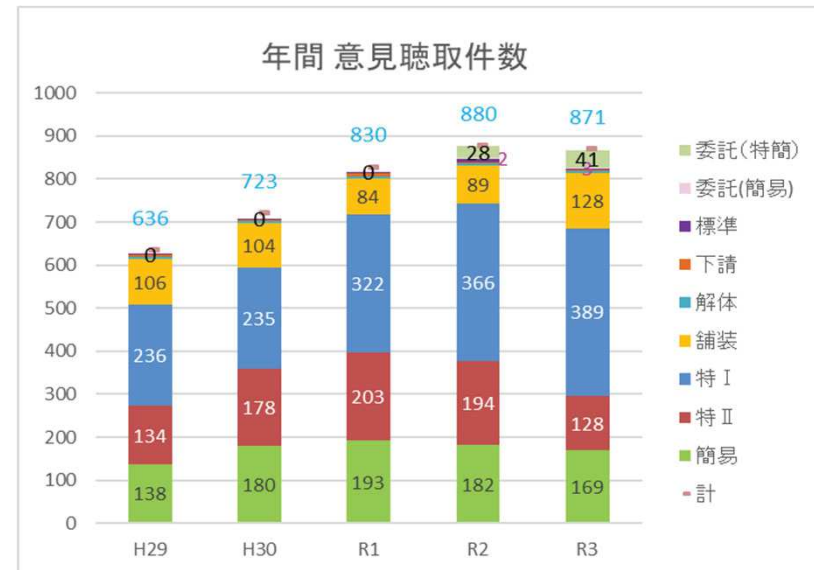
◆ 意見聴取の回数

令和3年度4月～3月期は、計**44回**の意見聴取を実施。
そのうち、標準型、簡易型を含むのは**38回**。
2班体制を**1回**実施している。

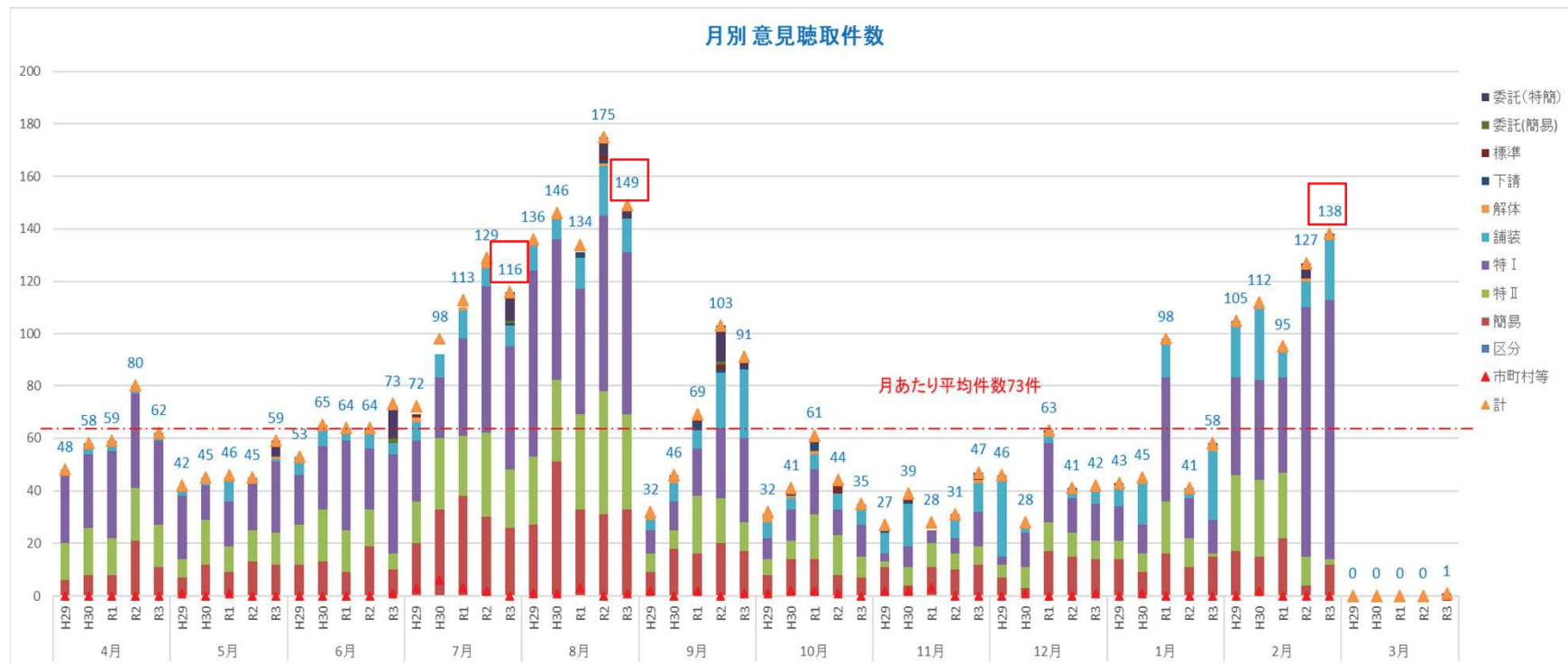


◆ 意見聴取件数の推移

年々増加傾向にあるが、令和3年度は、9件減少した。
H29 ⇒ H30 ⇒ R1 ⇒ R2 ⇒ R3
(+87) (+107) (+50) (-9)



- 意見聴取件数のピークは8月(149件)。
次いで2月(138件 2月補正予算執行分を含む)、7月(116件)
- 2班体制(2人×2班=4人)での意見聴取を1回実施。(8/26 37件/2班)



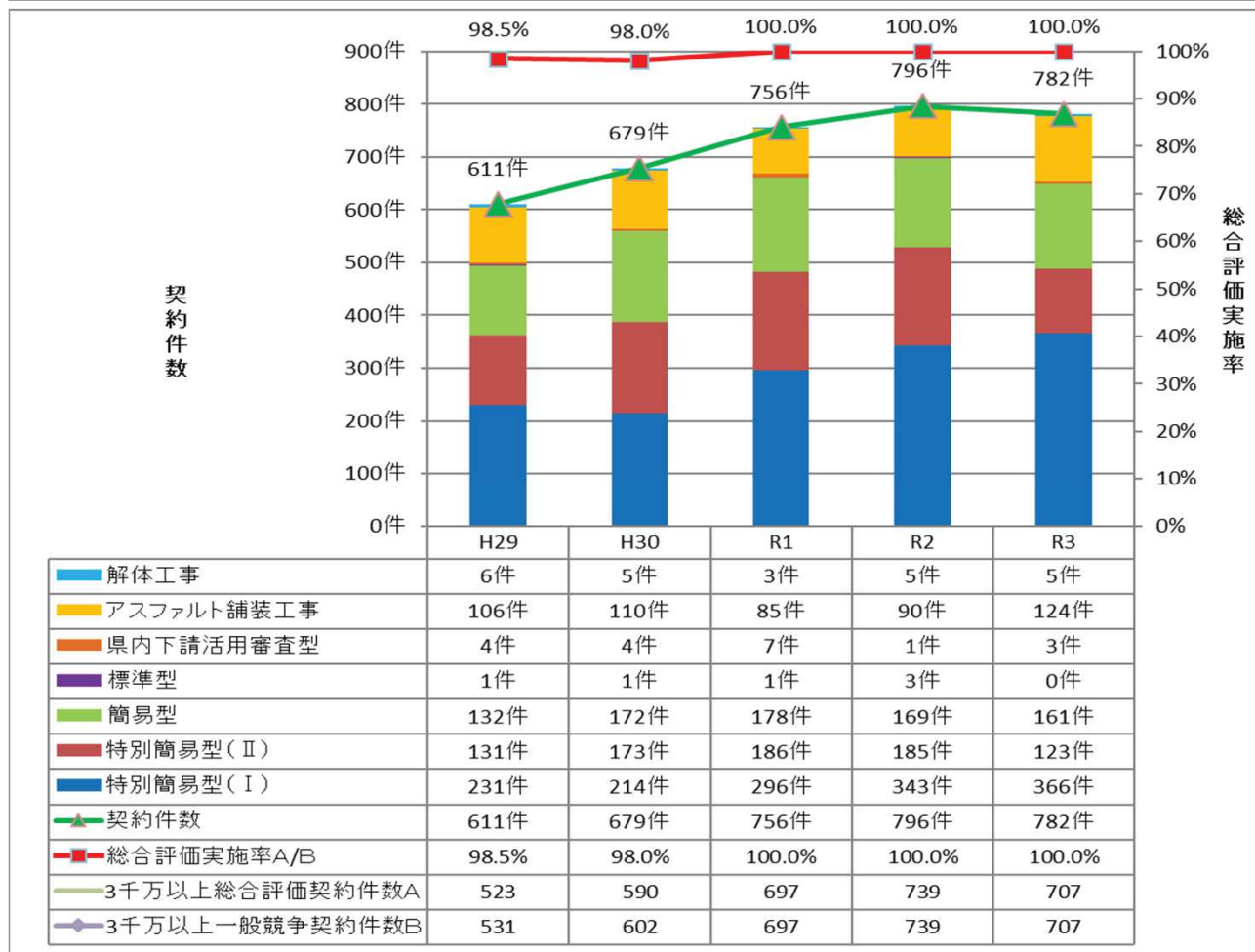
意見聴取件数が多い場合の対応

- 「技術提案」を求める標準型、及び「施工計画」を求める簡易型については、今まで通りの説明とする。
- 特別簡易型（Ⅰ）、特別簡易型（Ⅱ）の意見聴取の説明は、標準的な評価項目以外を選択している場合のみ説明し、工事内容等は代表箇所のみ説明を行う。
- 標準型及び簡易型で2時間（概ね12件）を超えることが予想される場合は、2班に分けて意見聴取する。
2班が困難な場合は別の日を設定する。

総合評価の実施状況(契約件数)



1. 3千万円以上の工事は原則総合評価落札方式としている。
2. 3千万円以上の一般競争入札の工事に占める総合評価の割合は100%



※ここでの総合評価適用率は3千万円以上の一般競争入札に占める割合。
 ※警察は除く。

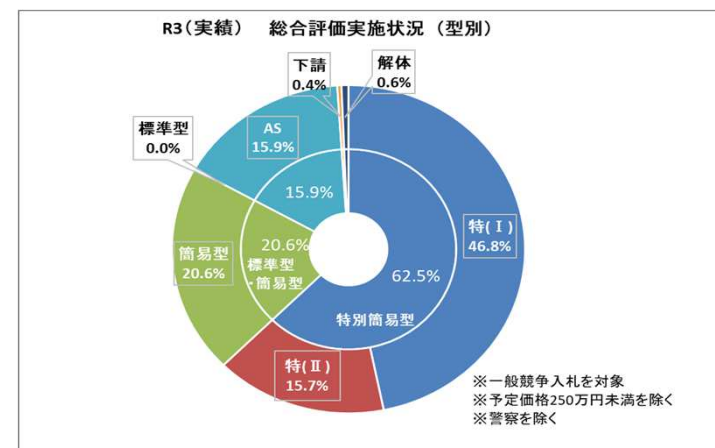
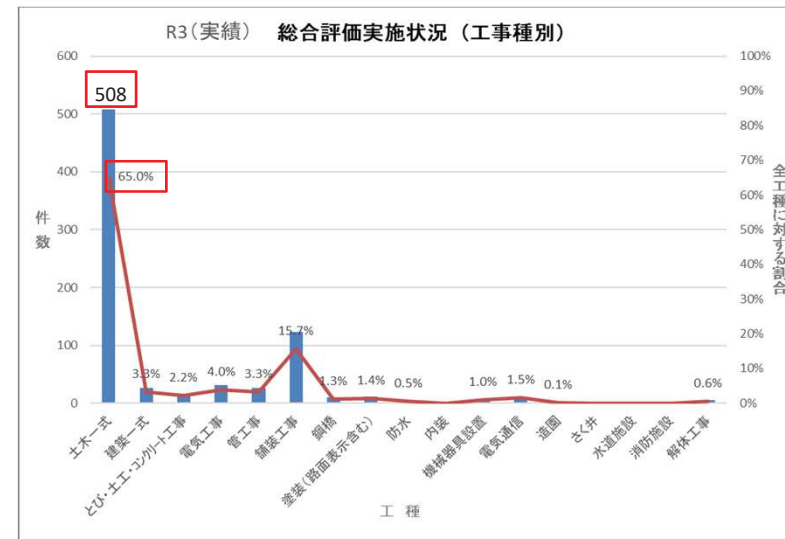
総合評価の実施状況(工種別契約件数)



1. 特別簡易型が約63%、簡易型を約21%の割合で実施。
2. 工事種別では土木一式が多く、508件/全782件(約65%)。

工事種別	件数								合計	割合
	特(I)	特(II)	簡易型	標準型	AS	下請	解体			
土木一式	285	111	111	0	1	0	0	508	65.0%	
建築一式	8	1	17	0	0	0	0	26	3.3%	
とび・土工・コンクリート工事	16	1	0	0	0	0	0	17	2.2%	
電気工事	13	6	11	0	0	1	0	31	4.0%	
管工事	14	2	10	0	0	0	0	26	3.3%	
舗装工事	0	0	0	0	123	0	0	123	15.7%	
鋼橋	5	0	5	0	0	0	0	10	1.3%	
塗装(路面表示含む)	8	1	2	0	0	0	0	11	1.4%	
防水	4	0	0	0	0	0	0	4	0.5%	
内装	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
機械器具設置	4	1	1	0	0	2	0	8	1.0%	
電気通信	8	0	4	0	0	0	0	12	1.5%	
造園	1	0	0	0	0	0	0	1	0.1%	
さく井	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
水道施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
消防施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
解体工事	0	0	0	0	0	0	5	5	0.6%	
合計(件数)	366	123	161	0	124	3	5	782	100%	
割合	46.8%	15.7%	20.6%	0.0%	15.9%	0.4%	0.6%	100%		
	62.5%		20.6%		15.9%	0.4%	0.6%			

※警察は除く。



落札者の状況(最低価格者以外が落札した割合)



1. 総合評価落札方式の全発注件数のうち6.5%で最低価格者以外が落札。
2. タイプ別では、解体施工体制評価型を除くと、特別簡易型(Ⅰ)の割合が高い。(7.4%)

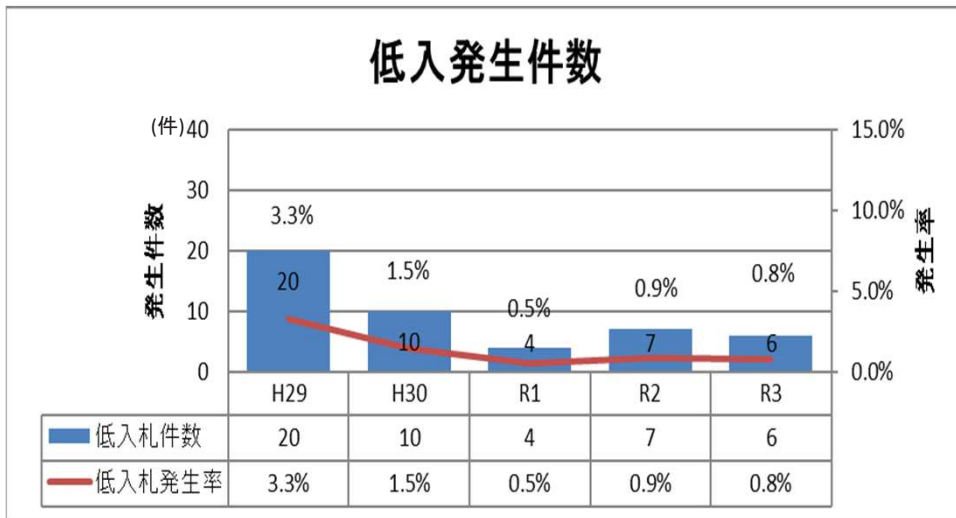
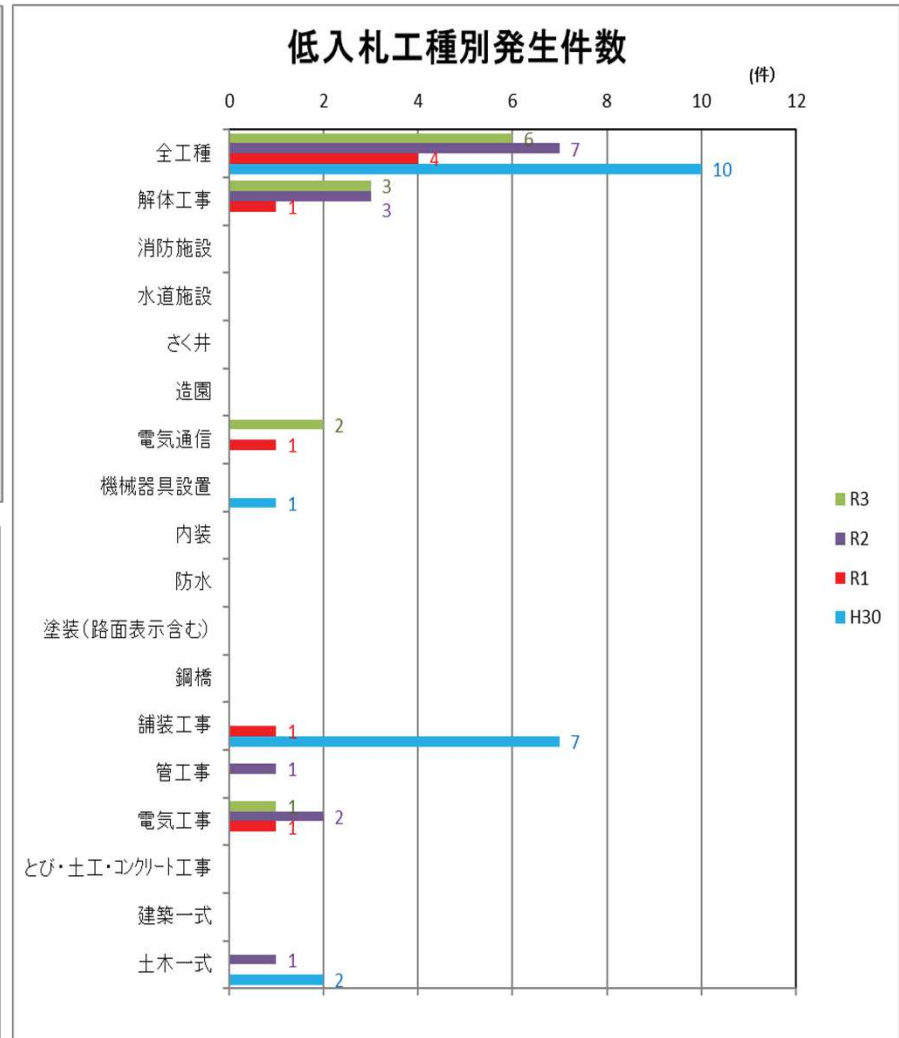
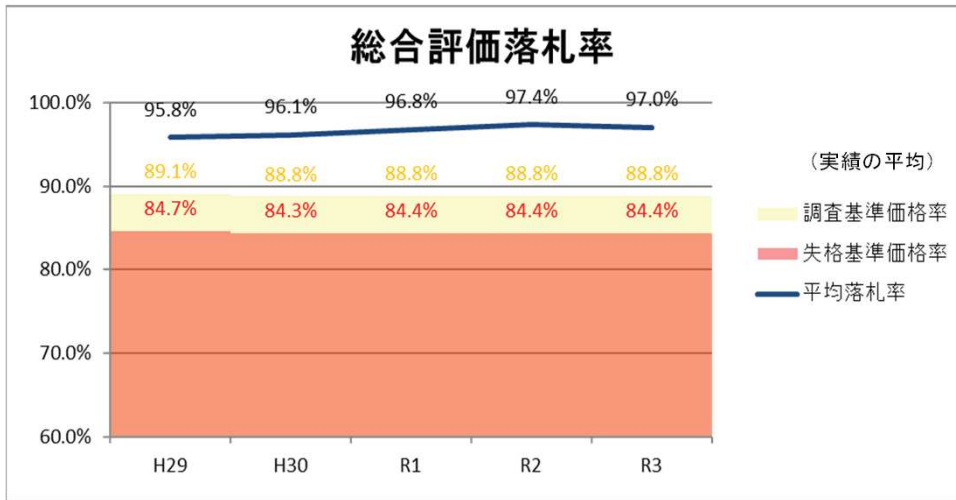
落札者の状況(最低価格者以外が落札した割合)

	H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			R3年度		
	発注件数	最低価格者以外の落札	左記の割合	発注件数	最低価格者以外の落札	左記の割合	発注件数	最低価格者以外の落札	左記の割合	発注件数	最低価格者以外の落札	左記の割合	発注件数	最低価格者以外の落札	左記の割合
特別簡易型(Ⅰ)	231件	26件	11.3%	214件	17件	7.9%	296件	25件	8.4%	343件	27件	7.9%	366件	27件	7.4%
特別簡易型(Ⅱ)	131件	13件	9.9%	173件	19件	11.0%	186件	12件	6.5%	185件	9件	4.9%	123件	6件	4.9%
簡易型	132件	7件	5.3%	172件	11件	6.4%	178件	6件	3.4%	169件	6件	3.6%	161件	11件	6.8%
標準型	1件	0件	0.0%	1件	0件	0.0%	1件	0件	0.0%	3件	0件	0.0%	0件	0件	-
AS施工体制評価型	106件	8件	7.5%	110件	1件	0.9%	85件	4件	4.7%	90件	3件	3.3%	124件	4件	3.2%
県内下請活用審査型	4件	1件	25.0%	4件	1件	25.0%	7件	1件	14.3%	1件	0件	0.0%	3件	0件	0.0%
解体施工体制評価型	6件	1件	16.7%	5件	0件	0.0%	3件	1件	33.3%	5件	2件	40.0%	5件	3件	60.0%
計	611件	56件	9.2%	679件	49件	7.2%	756件	49件	6.5%	796件	47件	5.9%	782件	51件	6.5%

※警察は除く。

総合評価における落札率・低入札状況

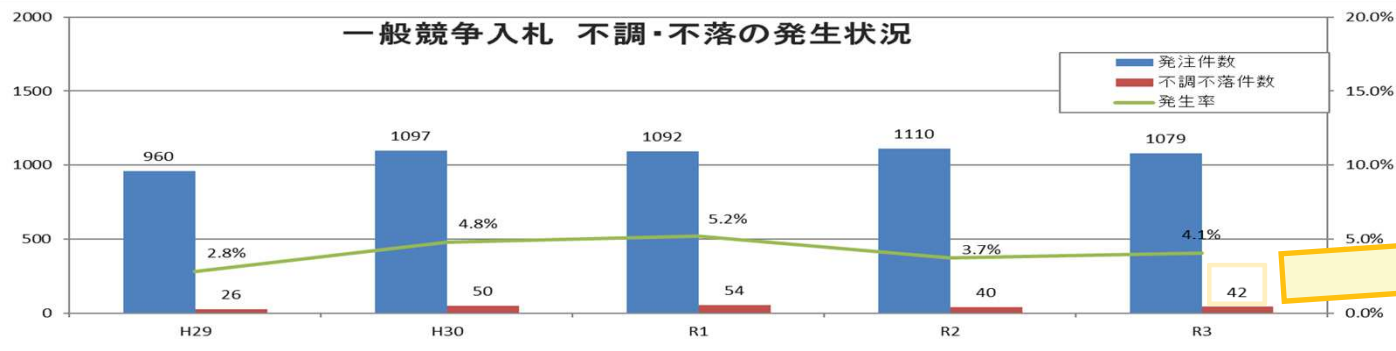
1. 総合評価落札方式の平均落札率はH29年度以降5年間は96%前後を推移しており、R3年度は**97.0%**となっている。
2. 低入札の発生率は、R3年度は**0.8%**であった。



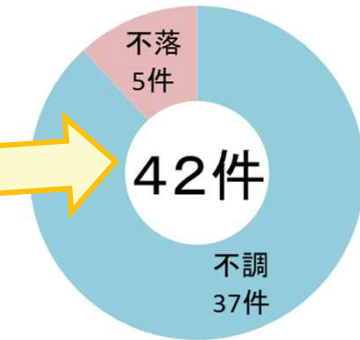
※警察は除く。

一般競争入札における不調・不落の発生状況

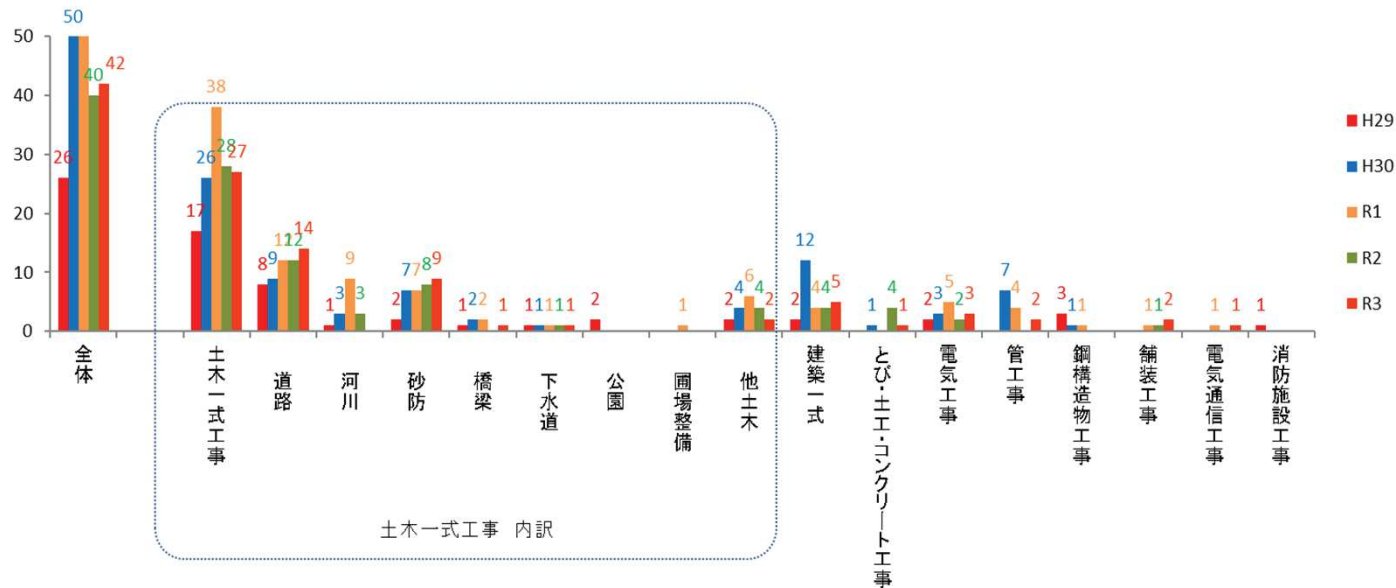
1. 不調・不落の発生率は、H30年度から概ね横ばいの傾向であった。
2. R3年度の不調不落発生率は4.1%で、昨年度に比べ0.4%増加した。



R3不調不落の内訳
(一般競争入札)



一般競争入札 工種別 不調・不落の発生件数(公共3部、企業局)



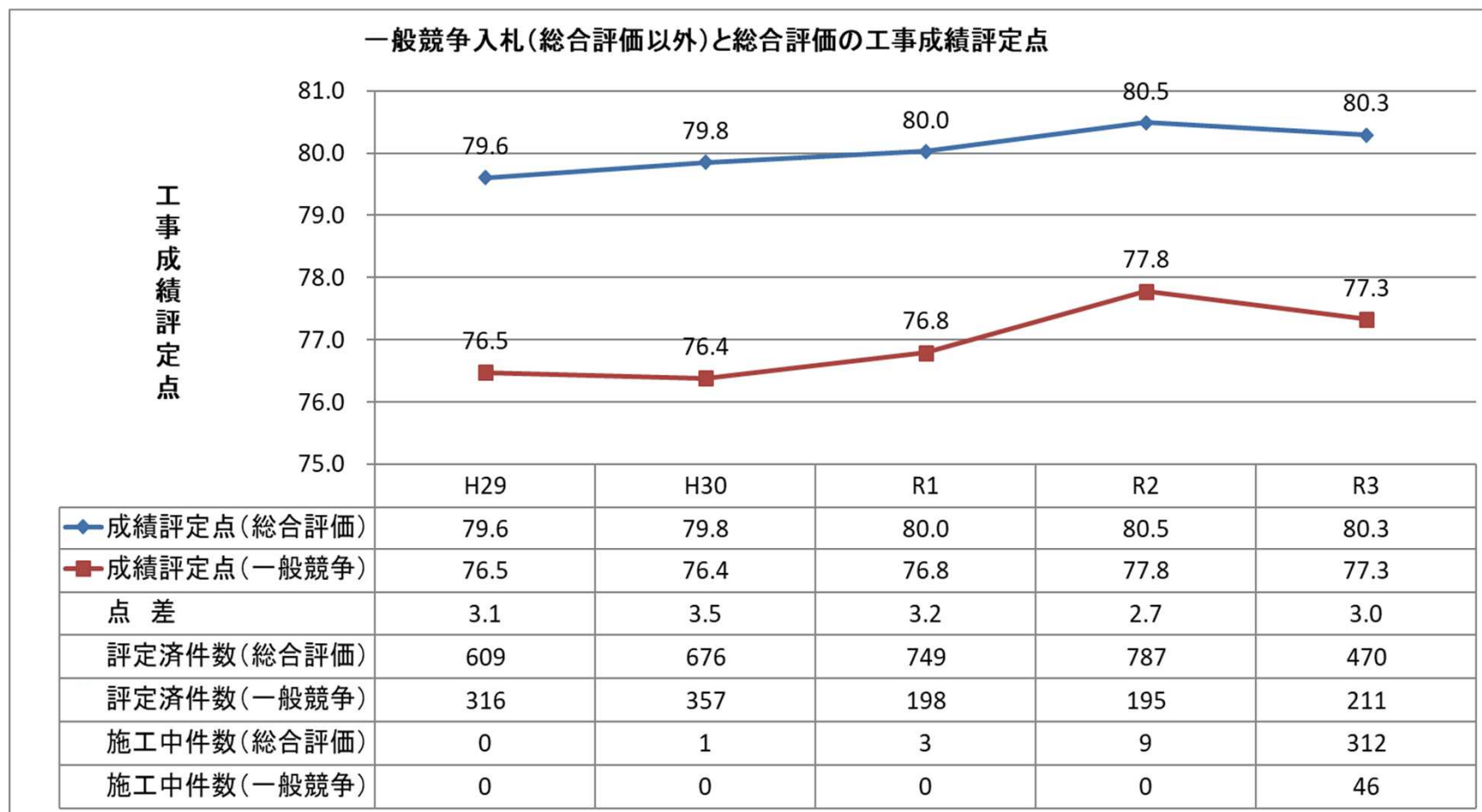
うち総合評価が占める割合
60% [25件/42件]
(不調23件+不落2件)

※公共4部局を対象

※不調とは応札者がいないこと。不落とは、応札者はいたが予定価格超過等により落札者が決まらないこと。

工事成績評定点(工事品質)の推移

1. 総合評価は79点以上で推移。
2. 一般競争入札は76～77点付近で推移。R3では総合評価が3.0点高い評価。(R2:2.7点)



- ・ 警察は除く。
- ・ 評定は契約額5百万円以上
- ・ 一般競争入札は、総合評価を除く、事後審査型のみの件数
- ・ 令和3年度の工事は施工中が全体約34% (総合評価40%、一般競争18%)

R4年8月1日時点

建設業の担い手対策をより一層推進するため、働き方改革や生産性向上の取り組み等を実施している企業を令和2年度から評価している。

1. 週休2日制度適用工事の実績の評価
2. ICT施工技術の施工実績及び施工計画の評価

1. 週休2日制度適用工事の実績の評価

◆評価内容

R3年度は、県全部局で特別簡易Ⅰ・Ⅱ型、簡易型の工事に適用を拡大。入札参加業者から申請された(直近過去1年以内)実績を審査し、評価する。(R2年度は、県全部局で特別簡易Ⅱ型、簡易型の工事に適用)

◆R3年度の実績

対象工事件数782件のうち、落札者に占める週休2日制度適用実績を評価した企業は、426件(54.5%)。(R2年度:25.1%)

契約年度	評価対象とした工事件数	入札参加者数		評価した企業数		評価した企業による落札件数	
	a	b	b/a	c	c/b	d	d/a
R2	371件	491者	1.32	111者	22.6%	93件	25.1%
R3	782件	1201者	1.54	591者	49.2%	426件	54.5%

2. ICT施工技術の施工実績及び施工計画の評価

①ICT施工技術の過去の施工実績を評価

◆評価内容

R3年度は、R2年度と同様、県全部局で1億円以上の工事に適用し、入札参加業者から申請された(直近過去2年以内)実績を審査し、評価する。

◆R3年度の実績

対象工事件数96件のうち、落札者に占めるICT施工技術の施工実績を評価した企業は、26件(27.1%)。(R2年度:17.6%)

契約年度	評価対象とした工事件数	入札参加者数		評価した企業数		評価した企業による落札件数	
	a	b	b/a	c	c/b	d	d/a
R2	91件	118者	1.30	18者	15.3%	16件	17.6%
R3	96件	134者	1.40	38者	28.4%	26件	27.1%

担い手対策を実施する企業の評価項目について

② 簡易型の施工計画として提案を求め評価

◆実施方針(目的)

ICT施工技術の活用により一層の普及を促す一つ的手段として、簡易型の施工計画でICT活用にかかる提案を求め評価する試み。

※ 該当する場合のみ実施

求める施工計画で、ICTよりも重要課題がある場合を除く。
(ICT受注者希望型の必須事項としない)

◆評価方法

技術評価様式5-1又は5-2(施工計画)の「施工上の課題」で、右記の【実施例】のような評価項目①～⑤について、提案を求め評価。

◆R3年度の実績

3件で評価実施。

(評価した工事種別等)

- ・道路 2件(舗装工、道路盛土工)
- ・公園 1件(グラウンド舗装)

【実施例】施工計画として求める場合の記載と評価方法の例

R3.4.1～	総合評価内容						
ICT活用工事の「受注者希望型」について、総合評価の簡易型で施工計画を求め、積極的に評価を行う。							
評価項目	総合評価落札方式－簡易型－施工計画－施工上の課題						
評価方法	求める施工計画案	<p>本工事については、ICTの受注者希望型としているが、〇〇工の施工の工夫について記載すること。なお、次の①～⑤全てのICT項目を活用する場合は、満点(10点)、ICT1項目以上又はICT以外で有効な提案は5点の評価とし、未記入は欠格とする。</p> <p>(ICT活用の提案には下記のICT項目番号「(例)ICT項目①～⑤」をそれぞれ記載すること。)</p> <p>ただし、提案は最大3提案までとし、それらの合計の評価点は下記のとおりとする。</p> <p>(a)提案全体でICT5項目全てが含まれている場合は、10点とする。</p> <p>(b)提案全体でICT4項目以下が含まれている場合は、5点とする。</p> <p>(c)提案全体でICT以外の有効な提案が含まれている場合は、5点とする。</p> <p>(d)提案全体で上記(b)と(c)をあわせて提案した場合は、5点とする。</p> <p>※ICT項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ ICT建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 					
適用	特Ⅰ	特Ⅱ	簡易	標準	As	解体	下請
	-	-	○	-	-	-	-
	県整部	農政部	林環部	企業局	金額指定	工種指定	型式指定
	○	○	○	○	-	-	ICT希望型

若手技術者の評価実施状況について

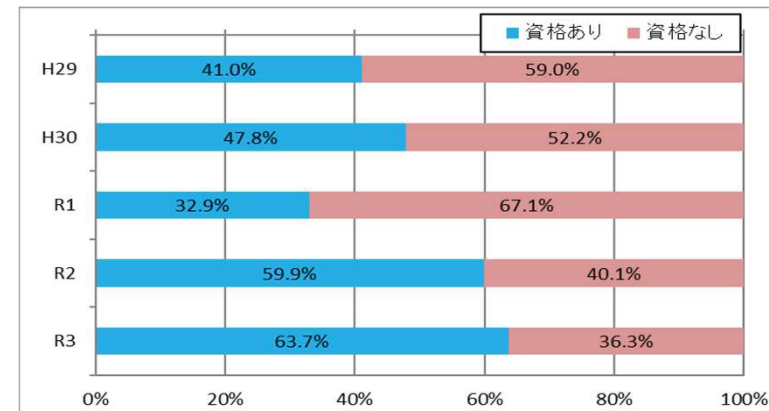


1. 落札者に占める若手技術者活用企業の割合は、横ばい。(R2:12% ⇒ R3:13%)
2. 入札参加者から申請のあった若手技術者のうち、資格保有者の割合は、R2の59.9%から、R3で63.7%と増加している。

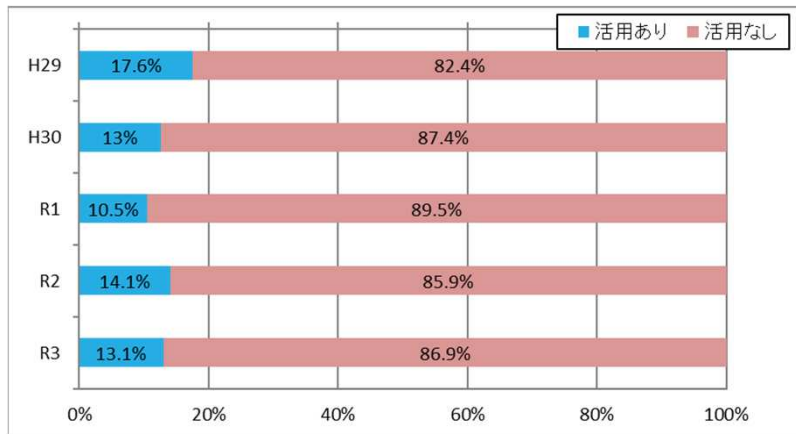
若手技術者評価対象工事件数の推移

契約年度	若手技術者を評価対象とした工事件数			若手技術者を活用する企業数		若手技術者を活用する企業による落札件数	
	a	b	b/a	c	c/b	d	d/a
H29	438件	762者	1.7	134者	18%	69件	16%
H30	491件	731者	1.5	92者	13%	55件	11%
R1	556件	782者	1.4	82者	10%	54件	10%
R2	796件	1182者	1.5	167者	14%	93件	12%
R3	782件	1201者	1.5	157者	13%	100件	13%

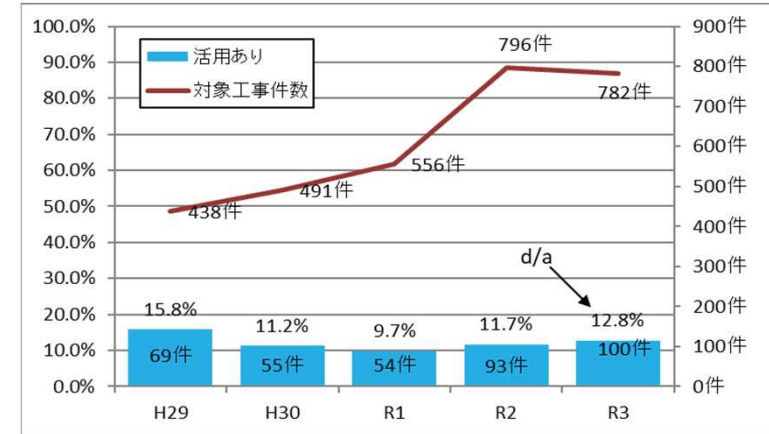
申請のあった若手技術者の資格保有の割合（入札参加者ベース）



入札参加者に占める若手技術者活用企業の割合（入札参加者ベース）



落札者に占める若手技術者活用企業の割合



- ・平成25年10月1日、土木一式工事の発注案件において、若手技術者（公告日が属する年度において30歳以下の者）の育成を目的に担当技術者として現場に配置する場合、2点の加点評価を実施
- ・平成29年4月1日改定。30歳→35歳。国家資格あり「2点」、国家資格無し「1点」とした
- ・令和2年4月1日改定。評価対象を土木一式から全ての工種に拡大して実施（対象：全県）

余裕期間制度の試行状況(R3年度発注工事)



1. R3年度は簡易型の工事170件のうち **67件**(指定**2件**、フレックス**65件**)で余裕期間制度を試行。
2. **不調不落発生率**については、余裕期間制度を適用有(**4.5%**)のほうが、適用無(**10.7%**)の工事よりも**低い**(不調不落が**少ない**)。
3. **工事成績評定点(工事品質)**については、余裕期間制度を適用有(**82.3点**)のほうが、適用無(**80.3点**)の工事よりも**高い**(高水準)。

◆余裕期間制度の適用の有無と不調不落発生率、工事成績評定点(品質)の関係

項目	総合評価の種類	R1	R2	R3
		総合評価の適用契約件数 [件]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	369 198 188 1 756
余裕期間(余フ)適用件数 [件]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	0 0 34 0 34	62 0 56 0 118	93 0 65 0 158
余裕期間(余指)適用件数 [件]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	0 0 2 0 2	0 0 3 0 3	4 1 2 0 7
余裕期間(余フ)適用割合 [%]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	0% 0% 18% 0% 4%	15% 0% 32% 0% 15%	19% 0% 38% 0% 20%
余裕期間(余指)適用割合 [%]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	0% 0% 1% 0% 0%	0% 0% 2% 0% 0%	1% 1% 1% 0% 1%

項目	総合評価の種類	R1			R2			R3		
		余裕期間の適用の有無		全体	余裕期間の適用の有無		全体	余裕期間の適用の有無		全体
		適用無	適用有		適用無	適用有		適用無	適用有	
不調・不落発生率 [%]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	17.9% 13.1% 19.1% 0.0% 16.8%	0.0% 0.0% 16.7% 0.0% 16.7%	17.9% 13.1% 18.6% 0.0% 16.8%	14.3% 12.0% 29.9% 33.3% 16.4%	1.6% 0.0% 3.4% 0.0% 2.5%	12.5% 12.0% 21.0% 33.3% 14.3%	7.5% 7.8% 10.7% 0.0% 8.1%	5.2% 0.0% 4.5% 0.0% 4.9%	7.1% 7.7% 8.2% 0.0% 7.4%
工事成績評定点(平均点) [点]	特Ⅰ 特Ⅱ 簡易型 標準型 総合評価計	79.3 80.0 81.2 84.9 79.9	- - 82.4 - 82.4	79.3 80.0 81.5 84.9 80.0	79.9 80.8 81.0 81.3 80.4	80.4 - 82.1 - 81.2	80.0 80.8 81.4 81.3 80.5	79.9 80.7 80.3 -	82.3 80.0 82.3 -	80.0 80.7 80.8 - 80.3

※R4年8月1日時点

※警察を除く

※全体：総合評価を対象とする全ての案件

※R3年度は2月補正予算執行に係る事務処理の特例による適用件数(特別簡易型)を含む

令和4年度 工事総合評価実施状況(中間報告)

令和4年9月28日
山梨県総合評価委員会
県土整備部技術管理課

令和4年度の総合評価実施方針(工事)

令和3年度 第2回委員会(令和4年3月17日)で決定

1. 原則、3千万円以上の工事について実施する。(緊急を要する工事を除く)
2. 一般競争入札の工事で余裕期間制度の試行を継続する。
3. 3千万円以上の災害本復旧工事を総合評価落札方式で実施する場合は、特別簡易型 I を適用する試行を継続する。
4. ICT(受注者希望型)を適用する工事はICTの施工計画を求める試行を継続する。
5. 1千万円以上の解体工事は「施工体制評価型」の試行を継続する。
6. 意見聴取は毎週木曜午後2時から防災新館で実施、木曜日が祝祭日の場合は、前後に実施する。
7. 令和4年度 第1回山梨県総合評価委員会開催を9月、第2回委員会開催を3月に予定する。

令和4年度 山梨県総合評価委員会 開催日
 第1回 令和4年9月28日
 第2回 令和5年3月開催予定

(工事規模)

3億円	簡易型 (30) 又は 標準型 (40) 【2項目】	標準型 (40) 又は 高度技術提案型
1億円	特別簡易型 (II) (20)	簡易型 (30) 【2項目】
5千万円	特別簡易型 (I) (15)	特別簡易型 (II) (20) (注1) 簡易型 (30) 【1項目】
1千万円	特別簡易型 (I) (15)	
	I・II	III・IV
	(技術的難易度)	

- 特別簡易型 (I)
企業実績、地域精通度、地域貢献度を評価するタイプ
- 特別簡易型 (II)
特別簡易型 (I)に加え、配置予定技術者を評価するタイプ
- 簡易型
特別簡易型 (II)に加え、簡易な施工計画の提案を評価するタイプ
- 標準型
簡易な施工計画ではなく、技術提案を求め、評価するタイプ

- 県内下請活用審査型
県内に有資格者がいない工事において、県内企業が下請できる部分が含まれる工事が対象
- 施工体制評価型
As工事、解体工事において、自社雇用の技術者や自社所有の施工機械を評価するタイプ

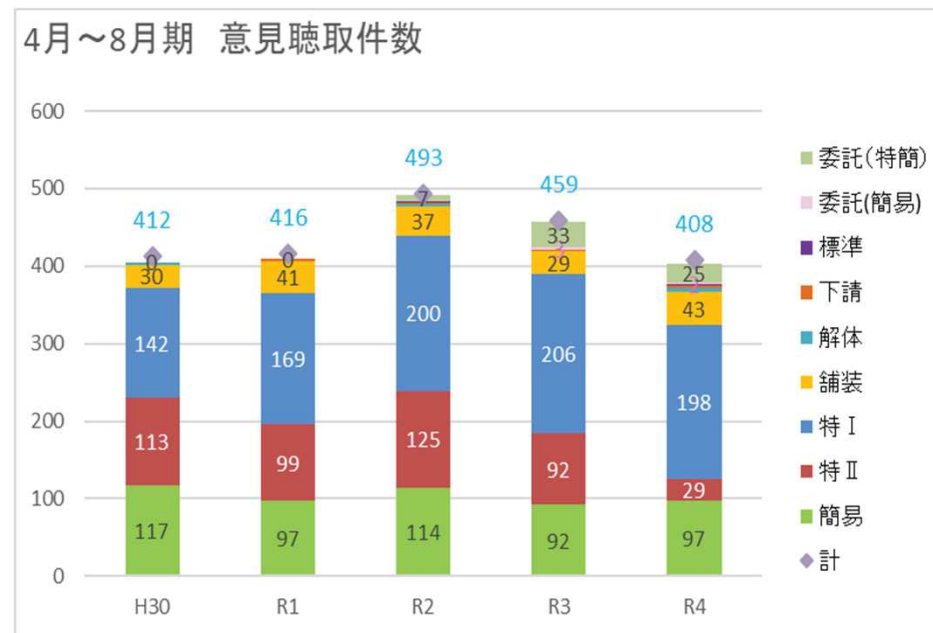
令和4年度の総合評価実施状況：中間報告

1. 令和4年度4月～8月期の意見聴取件数は**408件**（403件+県以外5件）。
2. 昨年度同期と比べ51件減少。

	合計	通常				下請	施工体制評価型		建設コンサルタント業務		県以外
		特別簡易型 (I)	特別簡易型 (II)	簡易型	標準型	県内下請活用審査型	アスファルト舗装工事	解体工事	簡易型	特別簡易型	市町村・道路公社等
意見聴取件数	408件	198件	29件	97件	1件	3件	43件	5件	2件	25件	5件

※R4年8月末集計

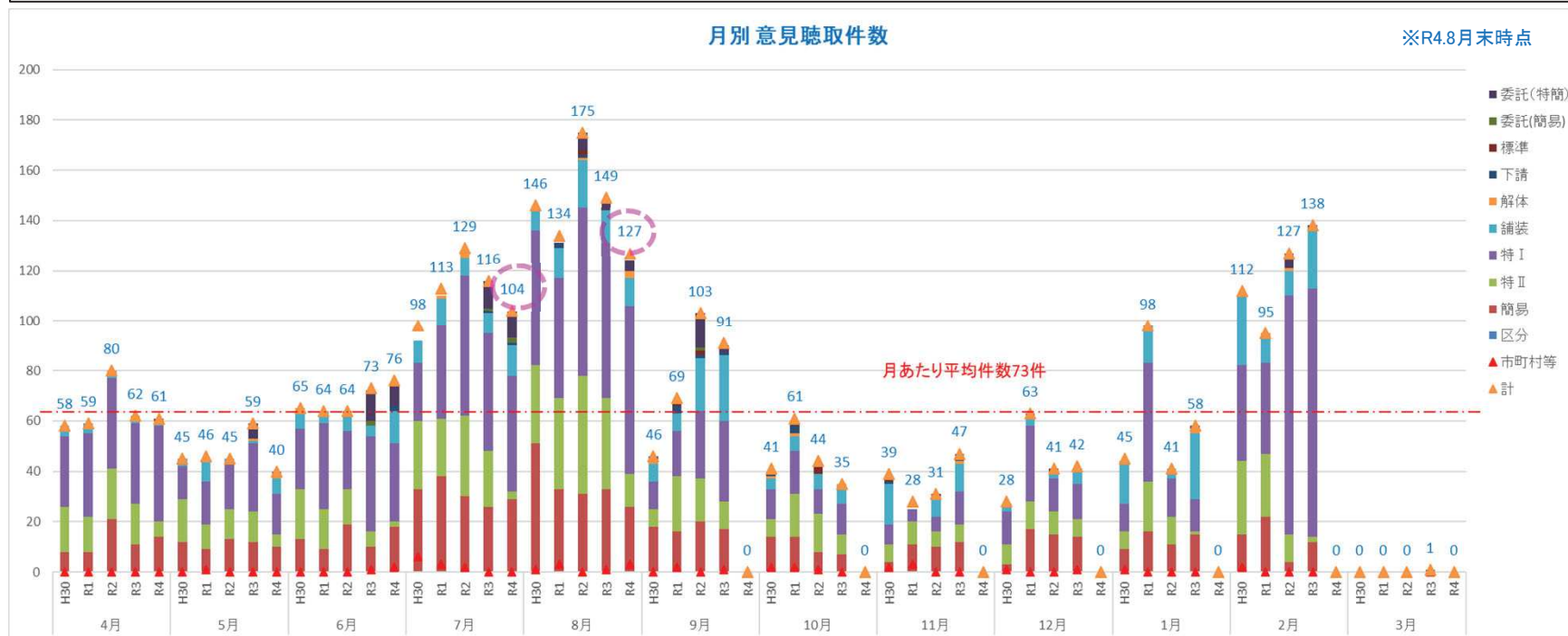
意見聴取の回数
 令和4年度4月～8月期
 計**21回**の意見聴取を実施した。(R3は20回)
 そのうち、簡易型(又は標準型)を含むのは**20回**。



月別 意見聴取実施状況：中間報告



- 令和4年度 4月～8月までの間で、意見聴取件数のピークは8月（127件）。次いで7月（104件） ※R3と同様
- 2班体制（2人×2班＝4人）での意見聴取を2回実施。（7/28 43件/2班 ,8/18 52件/2班）（※R3: 8/26 37件/2班）

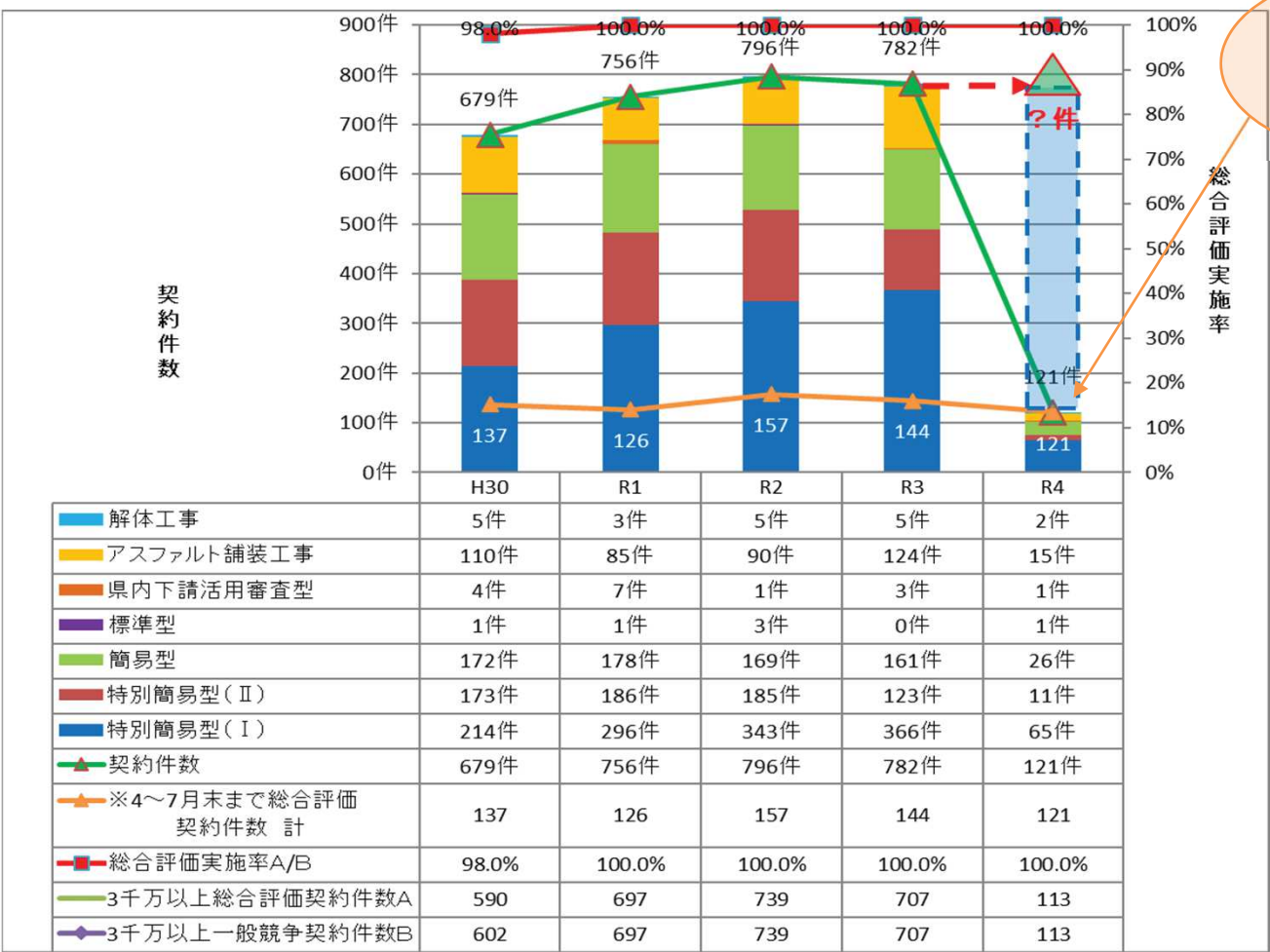


意見聴取件数が多い場合の対応

- 「技術提案」をを求める標準型、及び「施工計画」をを求める簡易型については、今まで通りの説明とする。
- 特別簡易型（I）、特別簡易型（II）の意見聴取の説明は、標準的な評価項目以外を選択している場合のみ説明し、工事内容等は代表箇所のみ説明を行う。
- 標準型及び簡易型で2時間（概ね12件）を超えることが予想される場合は、2班に分けて意見聴取する。2班が困難な場合は別の日を設定する。

総合評価の実施状況(契約件数): 中間報告

- 3千万円以上の工事は原則総合評価落札方式としている。
- 3千万円以上の一般競争入札の工事に占める総合評価の割合は100%



※R4年度は中間値
4月~7月末までの
契約件数 121件

※R4年8月1日時点
 ※ここでの総合評価適用率は3千万円以上の一般競争入札に占める割合。
 ※警察は除く。

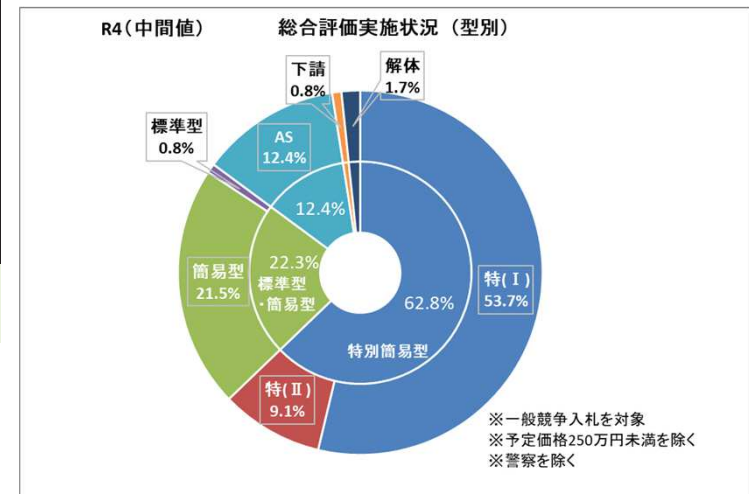
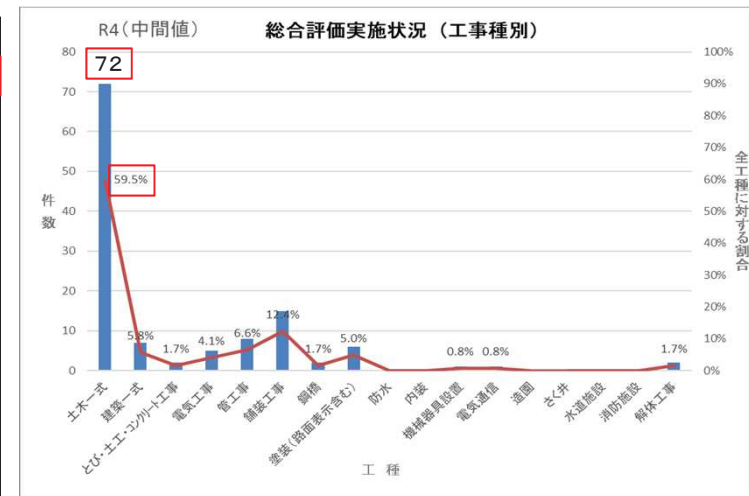
総合評価の実施状況(工種別契約件数):中間報告



1. 特別簡易型が約63%、簡易型を約21%の割合で実施。
2. 工事種別では土木一式が多く、72件/全121件(約60%)。

R4(中間値)

工事種別	件数								割合
	特(I)	特(II)	簡易型	標準型	AS	下請	解体	合計	
土木一式	51	8	12	1	0	0	0	72	59.5%
建築一式	1	0	6	0	0	0	0	7	5.8%
とび・土工・コンクリート工事	2	0	0	0	0	0	0	2	1.7%
電気工事	1	2	2	0	0	0	0	5	4.1%
管工事	4	1	3	0	0	0	0	8	6.6%
舗装工事	0	0	0	0	15	0	0	15	12.4%
鋼橋	1	0	1	0	0	0	0	2	1.7%
塗装(路面表示含む)	5	0	1	0	0	0	0	6	5.0%
防水	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
内装	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
機械器具設置	0	0	0	0	0	1	0	1	0.8%
電気通信	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
造園	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
さく井	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
水道施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
消防施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
解体工事	0	0	0	0	0	0	2	2	1.7%
合計(件数)	65	11	26	1	15	1	2	121	100%
割合	53.7%	9.1%	21.5%	0.8%	12.4%	0.8%	1.7%	100%	
		62.8%	22.3%	12.4%	0.8%	1.7%			



※R4年8月1日時点
 ※警察は除く。